



平成26年度 関西大学 年史資料展示室 企画展

Start for Next

関西大学第一高等学校・第一中学校創立100周年記念展



2014年4月1日(火) 開館

開館時間 午前10時～午後4時

場 所 関西大学千里山キャンパス 簡文館1階

休 館 日 日曜・祝日・大学が定めた休日

入 館 料 無料



Start for Next

関西大学第一高等学校・第一中学校
創立100周年記念展

年史資料展示室では、平成26年度の企画展として

「Start for Next - 関西大学第一高等学校・第一中学校創立100周年記念展」を開催いたします。

関西大学第一高等学校・第一中学校の前身である関西甲種商業学校は、大正2年(1913)、大阪市内の福島学舎で創立され、平成25年(2013)に100年の佳節を迎えました。

11月2日には教職員、生徒、父母、卒業生らが相集い、第一高等学校・第一中学校の創立100周年を寿ぐ記念式典を盛大に開催しました。

今回の企画展では、関西甲種商業学校に始まる第一高等学校・第一中学校100年の歴史を、学校の創立と移転、新制高等学校・新制中学校への転換、男女共学、校舎の新築・整備、制服の移り変わり、在校生や卒業生の活躍など、さまざまなトピックを通じてふりかえります。さらに、創立100周年記念式典の様子も紹介し、新たな世紀を歩み始めた第一高等学校・第一中学校の将来を展望いたします。

1. 関西甲種商業学校の誕生

関西大学第一高等学校・第一中学校の前身である関西甲種商業学校は、大正2年(1913)4月、大阪市北区上福島(現在の大阪市福島区福島7丁目、JR大阪環状線福島駅北側)の関西大学福島学舎で創立された。その目的とするところは、商業と工業で栄えていた大阪を支える商業人を育てることにあつた。

関西甲種商業学校では、国語・数学・理科・地理・歴史・英語・体操などの科目があり、外国人教師による授業も行われていた。このほか簿記・商業通論・商業法規・商業英語・会計学など、商業学校らしい専門的な科目もあった。課外授業としては、堺大浜(大阪府堺市)や香櫛園(兵庫県西宮市)での水泳教練、伊勢・和歌山・東京方面への修学旅行が行われていた。柔道・剣道・相撲・陸上・野球・卓球・テニスなどのスポーツや、弁論部・音楽部などの活動も盛んであつた。

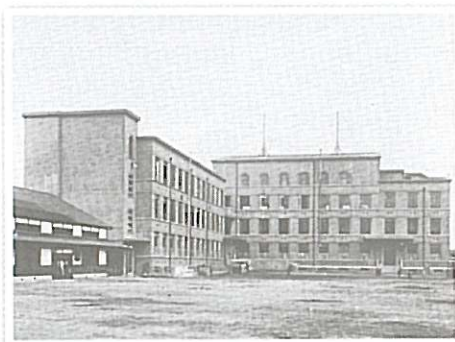


関西甲種商業学校の授業風景(昭和3年)

2. 天六学舎への移転

大正14年(1925)、東海道本線の拡張工事に伴い、国から福島学舎の敷地を買い上げる申し入れがあつた。これによって校地が縮小されるため、新たな場所への移転が検討された。その結果、千里山学舎への交通の便や、夜間に大阪市内から通学する勤労学生の利便性を考えて、昭和2年(1927)、大淀区長柄中通2丁目にある市有地の払い下げを受け、新たな校舎の建設を始めた。天六学舎の誕生である。

天六学舎は昭和4年(1929)9月15日に竣工し、福島学舎から関西大学専門部、関西甲種商業学校、第二商業学校が移転した。天六学舎は福島学舎のほぼ2倍の敷地面積があり、大人数を収容できる大講堂や大小40の教室を備えていた。生徒たちは、当時としては最新の設備で学ぶことができた。



竣工当初の天六学舎(昭和4年)

3. 新制中学校・高等学校への転換

終戦後の学校制度改革のもと、関西甲種商業学校は新制の学校として生まれ変わった。昭和22年(1947)4月、関西甲種商業学校を母体として関西大学第一中学校が開校し、甲種商業学校在学の1年・2年・3年生が新制第一中学校の生徒となった。

昭和23年(1948)4月には、関西甲種商業学校からの編入生と、新たに全学年で募集した生徒を合わせ、関西大学附属第一高等学校(通常<昼間>課程3年・夜間課程4年)が開校した。第1回入学式が行われた4月20日は、第一高等学校の創立記念日となった。

昭和24年(1949)3月には、関西甲種商業学校最後の卒業式が行われ、34名が卒業。関西甲種商業学校は大正2年(1913)の創立以来、5049名の卒業生を世に送り出し有終を迎えた。



昭和28年に竣工した一高・一中校舎

4. 男女共学の時代

昭和23年(1948)4月、新制の高等学校として開校した第一高等学校は、男子だけであった関西甲種商業学校の時とは違い、男女共学の学校として出発した。

第一高等学校での女子生徒の推移を卒業生数で見ると、下の表ようになるが、女子の進学は少なかった。そのため、昭和28年(1953)に女子の募集を止め、昭和30年(1955)に最後の女子生徒が卒業した。

第一高等学校・第一中学校が再び女子生徒を迎えるのは平成7年(1995)4月のことで、この年、第一中学校に48人の女子生徒が入学した。この女子生徒が第一高等学校へ進学した平成10年(1998)、第一高等学校も再び男女共学学校となった。

卒業年 区分	課程		夜間課程卒業生数			
	昼間課程卒業生数		普通科		商業科	
	総数	女子	総数	女子	総数	女子
昭和24年	213	2	148	8	163	
昭和25年	202		141	6	103	4
昭和26年	189	4	160	3	66	
昭和27年	176	2	77		61	1
昭和28年	219	4	49	2	23	
昭和29年	286		47	2	29	
昭和30年	261		20	1	21	



華道の授業(昭和28年)



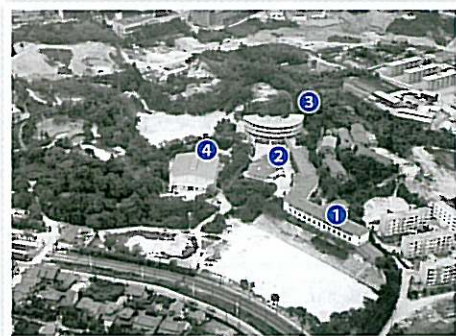
最後の女子生徒卒業式(昭和30年)

5. 校舎の移転・新築・整備

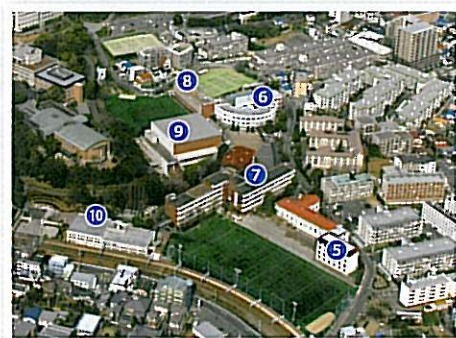
昭和25年(1950)3月、関西大学は千里山学会の南側に隣接する千里山遊園の跡地を購入した。第一高等学校・第一中学校の関係者は、大阪市内の天六学会と比べて環境の良い、大学外苑と名付けられたこの場所への移転を要望したが、なかなか実現しなかった。

その後、昭和27年(1952)4月から関西大学第二部の講義が天六学会で行われることになり、第一高等学校・第一中学校の千里山移転が本格的に検討された。そして、昭和28年(1953)11月に第一高等学校が、昭和32年(1957)11月には第一中学校が天六学会から千里山へ移転した。

第一高等学校の移転に先立つ昭和28年(1953)5月以降、大学外苑での校舎整備が始まり、現在に至るまで数多くの建物が建設されてきた。このうち、第一高等学校1号館・2号館・3号館と第一中学校1号館(扇形校舎)は文化勲章を受章した建築家村野藤吾による設計である。



昭和37年の一高・一中航空写真



平成21年の一高・一中航空写真

昭和37年航空写真

- ①昭和28年10月竣工 第一高等学校2号館
- ②昭和30年3月竣工 第一高等学校講堂兼体育館(現在の景風館)
- ③昭和32年11月竣工 第一中学校1号館(扇形校舎)
- ④昭和36年10月竣工 体育館兼講堂

平成21年航空写真

- ⑤昭和41年1月竣工 第一高等学校3号館(高中理科特別教室)
- ⑥昭和48年4月竣工 第一中学校2号館(一中特別教室)
- ⑦昭和55年12月竣工 第一高等学校1号館
- ⑧平成10年3月竣工 第一中学校3号館
- ⑨平成11年2月竣工 第一高等学校・第一中学校体育館 秀麗館
- ⑩平成16年1月竣工 親和館(多目的教室・食堂)

6. 活躍する在校生・卒業生

文武両道を実践する校風を受け継ぐ第一高等学校・第一中学校では、授業や課外活動を通じて多くの人材が育ち、彼らは卒業後も各界で活躍している。

佐藤信夫(昭和35年卒業)は、一高在学中の昭和35年(1960)年2月、第8回冬季オリンピック(米国・スコーパーレー)にフィギュアスケート男子の日本代表として出場。現在は浅田真央選手をはじめとする世界トップスケーターのコーチとして後進の指導にあたっている。平成22年(2010)には、世界フィギュアスケート殿堂入りを果たした。

堀江謙一(昭和32年卒業)は、一高ではヨット部に所属して操舵の技術を磨き、卒業後の昭和37年(1962)、単独での太平洋横断航海を成功させた。

平成7年(1995)の男女共学化以降は、アメリカンフットボール部、サッカー部、硬式野球部、日本拳法部などで全国レベルでの活躍が続き、梅鉢貴秀(鹿島アントラーズ)、西田哲郎(楽天イーグルス)、久保康友(横浜DeNAベイスターズ)らプロで活躍する選手も誕生している。



佐藤信夫(昭和35年 スーパーレー)



アメリカンフットボール部 対関西学院高等部

創立 100 周年記念式典

平成25年(2013)11月2日、関西甲種商業学校の創立から数えて100周年を迎えた関西大学第一高等学校・第一中学校は、大阪府門真市のなみはやドームで祝賀の記念式典を開催した。在校生、保護者、同窓生、来賓や関係者など、4000人を超える人々が集う盛大な式典となった。

記念式典は、出席者全員による校歌斉唱に始まり、橋本定樹校長の式辞、池内啓三理事長の挨拶、来賓の小西禎一大阪府副知事、小坂圭一高同窓会長の祝辞と続いた。さらに、生徒代表水野真君の挨拶の後は、100周年を盛り上げたマスコットキャラクターとシンボルマークをデザインした吉武茉莉さん、中田早紀さんの表彰式が行われた。

式典後半は、プラスバンドとカイザー部チアリーディングが、力強い演奏と演舞を披露した。式典終了直前には、第一高等学校の卒業生でお笑いコンビのジャルジャル(平成14年卒業)が登場し、会場をわかせた。参加者のだれもが第一高等学校と第一中学校のさらなる飛躍を確信した印象深い式典となった。



創立100周年記念式典



校歌斉唱
(創立100周年記念式典)



記念式典でのカイザー部
チアリーディングの演舞



Since 1913
KANSAI UNIV. DAI-ICHI

制服の変遷

戦後、新制の第一高等学校・第一中学校として開校した当初、男子生徒は黒の詰襟学生服を着用していた。その後、昭和28年(1953)、第一中学校では黒の詰襟を止め、紺色・ホック留め・蛇腹縁取りの制服が制定された。第一高等学校に昭和30年(1955)まで在籍していた女子生徒には、決まった制服はなかったが、卒業アルバムで確認すると、女子生徒はセーラー服やブレザーを着用している。

昭和34年(1959)、第一高等学校・第一中学校共通のグレー折襟の制服が制定された。学生帽も制服と同じグレーで、第一高等学校の帽子には白の二本線が入っていた。

平成2年(1990)、制服が大幅に改められ、30余年の伝統があったグレー折襟の制服は廃止され、新たにブレザーが採用された。



男子校時代の制服 登校風景



現在の制服

千里山花壇・千里山遊園

第一高等学校・第一中学校の校地は、戦後間もない昭和25年(1950)まで、千里山花壇・千里山遊園とよばれた遊園地であった。千里山花壇は京阪電車の前身にあたる北大阪電鉄により、大正10年(1921)に開園した。現在、第一高等学校と第一中学校の正門のある場所が、かつての遊園地入り口であり、この遊園地は自然の景観を残した中に運動場や野外音楽堂・飛行塔・小動物園などを設け、家族連れでにぎわった。また、桜・桃・菊・紅葉の名所としても有名で、季節ごとに多くの見物客を集めた。

市民の憩いの場として親しまれていた遊園地であったが、戦争中は軍需物資の貯蔵庫として利用され、戦後すぐに再開したが、以前のような盛況は戻らず、当時の所有者であった京阪神急行電鉄(現在の阪急電鉄)は売却の方針を立てた。当初は、カナダ聖母修道会が女子学院の建設地として購入していたが、交渉の結果、昭和25年(1950)12月、関西大学が譲り受けることになった。遊園地跡地は関西大学外苑と名付けられ、ここに関西大学幼稚園、第一中学校、第一高等学校の校舎が建設されるのである。



飛行塔



野外音楽堂

第二商業学校と第一高等学校の夜間課程

現在の第一高等学校と第一中学校が伝統を受け継いでいる学校には、関西甲種商業学校のほかに、夜間に授業が行われていた第二商業学校がある。

第二商業学校は大正13年(1924)、大阪市内の福島学舎で開校した修業年限3年の学校である。午後4時半から9時まで授業が行われ、夜間に勉強をして、大学に進学できる中学校卒業資格を望む生徒が通学した。昭和4年(1929)には新たに竣工した天六学舎に校舎を移すが、戦争末期の昭和20年(1945)3月、理科系を重視した学制改革により、第二商業学校は2773人の卒業生を送り出して廃止となった。

戦後の昭和23年(1948)、天六学舎で新制高校として関西大学第一高等学校が誕生したときに、第二商業学校関係者の尽力により、普通科と商業科からなる夜間課程が設けられた。夜間課程の生徒は、昼間働きながら学ぶ人がほとんどで、また戦争で断念した勉学を再開した人も多く、10代の生徒だけでなく、さまざまな年齢層の人々が集まっていた。昼間課程と同じく夜間課程も男女共学であった。

その後、公立高校に定時制(夜間課程)が設置されたため志願者が減少したことや、大学第二部(夜間)の天六学舎移転が決まったことから、昭和30年(1955)3月に最後の卒業式を挙行し、夜間課程はその役割を終えた。



第二商業学校校友会誌



第二商業学校校章

関西大学年史編纂室

〒564-8680大阪府吹田市山手町3-3-35

【TEL】06-6368-1062(直通)

【URL】<http://www.kansai-u.ac.jp/nenshi/>

【E-mail】nenshi@ml.kandai.jp